

平成17年度 **会務報告**

事務局長 **横山 守**

1. 一般経過報告(概要)



- 5月9日 第5回常任委員会
- 第2回監査委員会
- 10日 平成17年度定期総会
- 第1回組織検討委員会
- 20日 第1回常任委員会
- 23～24日 第1回企画委員会
- 第1回研究推進委員会
- 6月 16日 第2回常任委員会
- 第2回組織検討委員会
- 24日 道へき・複連情報第123号発行
- 7月 2日 道へき・複連OB会役員会
- 4～5日 第2回研究推進委員会
- 9日 義務教育費国庫負担制度の堅持を求める北海道集会
- 28日 第3回組織検討委員会
- 8月 10日 根室プレ大会挨拶回り
- ～12日
- 21日 道へき・複連OB会定期総会
- 9月 20日 第3回常任委員会
- 21日 第1回監査委員会、評議委員会
- 21日 第54回全道へき地複式教育研究大会
- ～22日 後志大会
- 30日 根室プレ大会開始
- 10月 13日 第54回全国へき地教育研究大会
- ～14日 徳島大会
- 17～19日 第3回研究推進委員会
- 18日 第21回北海道へき地複式教育実践研究発表大会
- 11月 20日 道へき・複連OB会役員会
- 25日 道へき・複連情報第124号発行
- 1月 13日 第2回企画委員会
- 30日 第4回常任委員会
- 第4回組織検討委員会
- 2月 16日 第4回研究推進委員会
- ～17日
- 3月 1日 道へき・複連情報第125号発行

2. 一般業務報告

平成17年度においても、前年度に引き続き、研究、組織、教育条件整備等の当面する課題について、新たな展望のもとにその解決に向け努力して参りました。ここにその概要を申し上げます。

◆研究面では、第7次長期5か年研究推進計画の2年次に当たり、第54回全道へき地複式教育研究大会後志大会(6町3村9会場)、第55回全道へき地複式教育研究大会根室プレ大会(1市4町8会場)、第21回北海道へき地複式教育実践研究発表大会を開催致しました。各地区へき・複連、並びに、会場校の多大なご努力とご協力によって、全道に実践的な研究成果の発信・交流が行われるとともに今後の研究推進に明るい展望を拓くことができ、大きな成果を上げました。実践研究発表大会は、会場を従来の道研からホテルライフオート札幌に移し、2年目を迎えましたが、全道各地のへき地・複式教育の実践の発表、交流が行われ、へき地複式教育の充実・発展に寄与することができました。

◆組織面では、市町村合併や地方の財政逼迫、少子化等により、へき地・小規模校の統廃合が進み、加盟校、及び、会員の減少傾向に歯止めがかからない状況にあります。これに伴う今後の組織の在り方や運営について、組織検討委員会の答申を受けて、16年度の評議委員会・事務局長合同会議の廃止、及び、総務部・研究部・情報部・大会部の4部体制から、情報部の業務を分散、整理した3部体制への移行に続き、今年度は、監査委員を1名減らすなど、組織、運営のスリム化に努めて参りました。

未加盟校への働きかけについては、各地区の事情は様々ですが、道へき・複連の発足の趣旨や目的等について啓蒙活動を行うなど、各地区での意識高揚に向けた取組をお願いしているところです。また、小規模中学校との研究・組織面で一体化については、小規模中学校とのニーズにあった研究面での一体化が可能かどうか検討を進めているところです。

第55回 全道へき地複式教育研究大会 **根室大会に向けて**

根室複式教育研究連盟研究部長 **中西 敏樹**

はじめに

平成18年9月14日・15日両日に第55回全道へき地複式教育研究大会根室大会が開催されます。この開催のために道へき・複の本部や根室教育局、各市町の教育委員会には、多くのご助言・ご支援いただきました。

大会当日は、たくさんの全道の仲間に参加いただき真摯なご意見をいただき実り多い大会にするため、根室管内のへき地複式教育にかかわる者が一つとなり準備に取り組んでいるところです。

1. 根室大会の位置づけ

第55回全道へき地複式教育研究大会根室大会は、道へき・複連の第7次5か年研究推進計画実践検証期の最終年度に当たり後志大会の成果と課題を踏まえ、根室地区の実践を公開し、研究交流を深めて北海道へき地・複式教育の一層の発展を図るために開催されるものです。根室複式教育研究連盟は、これまでに市町研究会、管内研究大会と年度ごとに研究を重ね成果と課題を明らかにしてきました。それを全道の実践課題とも統合させて次年度の空知大会へつなぐ使命を担っている。

- 第7次長期5か年研究推進計画に即し具体的な研究推進計画を樹立し、研究主題を実践検証する大会である。
- プレ研究大会、市町研究会を通じて実践交流を図り研究の質的な向上を目指すと共に研究の継続的な発展と累積を通して根室管内、北海道へき地複式教育の発展に寄与する大会である。
- 根室管内のへき地複式校の実態と特性に立ち、課題の検証の大会である。

2. プレ大会の成果と課題

根室市立昆布盛小学校、別海町立美原小学校・同光進小中学校、中標津町立武佐小中学校・同俣橋小学校・同養老牛小学校、標津町立薫別小中学校、羅臼町立知円別小学校の8校を会場にプレ研が開催されました。

- 成果として、
- (1)会場校での教職員のまとまり共同研究意識

が高まり、地域・学校の特色を生かした創意ある実践を公開することができた。

(2)市町ごとの実行委員会が組織され会場校を中心とした共同研究体制確立のスタートを切ることが出来た。

(3)根室教育局、各市町教育委員会をはじめとする関係機関の支援の中で開催することが出来た。

課題として

- (1)根室複式教育研究連盟と各市町の複式教育研究組織との緊密な連携を進めること。
- (2)研究協議の活性化と深まりを目指すこと。

3. 根室大会の目指すもの ～継承と転換～

第55回根室大会では「豊饒の海と緑の大地に生き、根室の未来を拓く子らに豊かな心と確かな学力を」をスローガンとして掲げました。

根室を支えているのは、銀鱗踊る豊饒の海、牛を育て作物を与えてくれる緑の大地である。しかし少子化、過疎化の波の中で地域から子どもの姿が無くなるようにしている。こんな時代だからこそ郷土に根を張り発展の可能性をねばり強く見だし躍動する子どもの育成が望まれている。

- (1)へき地性・小規模性・複式形態の「三特性」を生かし個に応じた授業の創造や個が生きる望ましい集団化の指導の充実を目指す。
- (2)授業を作る楽しさや充実感をもち力量の向上を目指し、複式指導にとどまらず広く教育の営みを感じ取ることの出来る大会を目指す。

4. 終わりに

プレ研が終わった後の感想を紹介し「終わりに」にかえます。

「こうしたプレ研があることで自分も勉強できるし、子ども達のがんばりも見ることが出来る。教室掲示もがんばれるし本当に良かった。」「仲間のがんばりを友人の教員に自慢してしまいました。」

当日の反省会の中での言葉です。感動の涙を流した先生が多数いました。運営や研究を進める上で大変なことがあるがやらなければならないことに意味を見いだしがんばるところに教師としての成長や向上があるのだと思った。